

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポートほっぷ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月16日		～ 令和8年3月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和8年3月1日		～ 令和8年3月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	令和8年3月1日		～ 令和8年3月27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先環境の具体的な改善	子どもへの具体的な関わり方以前に、環境調整について検討するように意識しています。 訪問先施設からも「教室環境への助言により、本児が過ごしやすくなった」という声が聞かれ、嬉しく思っています。	外部研修への参加や、法人内での事例検討会を実行するほか、ベテラン職員と若手職員のペアで訪問し、ベテラン職員によるOJTを実施し、訪問支援員としての専門性を高めることを検討します。
2	丁寧なコミュニケーションと信頼関係	派遣先の職員の方に対し、指導や助言を行うスタンスをとるのではなく、パートナーシップを大切に、一緒に悩み・考える姿勢を意識しています。 笑顔で接する姿勢や、訪問先との情報共有を行っている点において、施設側からも評価いただけることができました。	応援ミーティングの実施を軸に、保護者～支援者間、支援者～支援者間の交流機会の提供についてもいっそうの検討を深めていきます。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門研修の不足	外部の機関との連携する経験が浅い職員や、それに特化した研修が十分に行えていないことが課題として考えられます。	“更に充実を図るための取組等”で上げた内容と重複しますが、外部研修への参加や、法人内での事例検討会を強化し、訪問支援員としての専門性を高めることを検討します。
2	役割・目的の周知不足	訪問先施設が「(授業妨害などの)困りごとを事業所が直接解決する」と誤解していた事例があり、支援の目的や限界についての事前の説明に課題があります。	契約時や訪問開始時の事業説明において、事業の目的や運営理念(園・学校の先生への後方支援であること、子どもやその家族への指導的なスタンスには限界があること)を改めて丁寧に説明します。 パンフレットの他、事業説明についてスライド等を用いてプレゼンすることも検討します。
3			